



慢性骨髄性白血病の急性転化とフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ芽球性白血病の鑑別における CD66c の有用性

2011年1月1日から2023年5月31日までに日本医科大学付属病院血液内科にてフローサイトメトリー検査によって腫瘍細胞が20%以上であった患者さん

研究協力をお願い

当科では「慢性骨髄性白血病の急性転化とフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ芽球性白血病の鑑別における CD66c の有用性」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2011年1月1日より2023年5月31日までに日本医科大学付属病院血液内科にてフローサイトメトリーの検査を受けた患者さんのうち CD66c が発現している方の特徴を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただき、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：慢性骨髄性白血病の急性転化とフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ芽球性白血病の鑑別における CD66c の有用性

研究期間：研究実施許可日～2026年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 血液内科 由井 俊輔

(2) 研究の意義、目的について

慢性骨髄性白血病（以下 CML）は稀にリンパ性に急性転化することが知られており、その場合急性リンパ性白血病（以下 ALL）との鑑別が時に難しくなります。それぞれの疾患は治療方法が異なるため、正確に診断することが重要ですが CD66c という細胞の表面に発現するマーカーが役にたつのではないかと考えています。本研究によって CD66c が両者の鑑別に有効であることが示されれば、診断がよりやり易くなる可能性があります。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2011年1月1日より2023年5月31日までに日本医科大学付属病院血液内科にて、フローサイトメトリーによって腫瘍細胞が20%以上であった患者さんを対象とします。ALL と CML の鑑別に CD66c が有用であるかを解析しますが、CD66c を発現する他の疾患の臨床的特徴の解析なども行います。この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：特に用いません。

情報：年齢、性別、Performance status(患者さんの元気さの指標)、治療開始日、寛解日、再発日、最終的観察日、OS(生存期間)、RFS(非再発生存期間)、転帰、治療内容(移植有無含む)、診断時染色体異常、フィラデルフィア染色体のタイプ(メジャー or マイナー)、フィラデルフィア染色体測定方法、好中球 FISH の結果、視算血液像結果、診断時、フローサイトメトリーの結果等。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。



(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 血液内科 助教・医員 丸毛 淳史

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24246

メールアドレス：a-agassi2112@nms.ac.jp